

社会に出て働くとは何かを考える ー自分の将来を考え、進路について意識を持とうー

株式会社 開倫塾
代表取締役 社長 林 明夫
(経済同友会)

1. はじめにー私の仕事や社会的活動の紹介ー

- (1) 株式会社 開倫塾 (社長) 児童・生徒の学習指導
- (2) マニー株式会社 (社外取締役) 精密医療器機の製造(本社、宇都宮市。ベトナムとミャンマーにも)
- (3) 東日本高等学院 (評議員) 不登校であった中・高校生のための高等学校
- (4) 特別養護老人ホーム 清明苑 (理事)
- (5) 宇都宮大学大学院工学研究科 (客員教授)
- (6) 栃木県社会教育委員 (栃木県教育委員会)
- (7) 学校制度に関する懇談会 委員 (宇都宮市教育委員会)
- ＊開倫ユネスコ協会 (会長)
開倫研究所 (所長)

2. 1つ1つの「仕事」や「社会的活動」には、「社会的使命(mission, ミッション)」がある。

- (1) 「社会的使命(mission, ミッション)」とは何かを絶えず考え続けること。
- (2) 「社会的使命(mission, ミッション)」とは「世の中のお役に立つこと」。
- (3) 「世の中のお役に立つ」とは「お客様の問題解決になること」。
- ＊「お客様の問題解決」にならなければ、「仕事」をしたことにはならない。

3. 「仕事」とは、「世の中のお役に立つこと」つまり「お客様の問題解決になること」を通して

- (1) 「自己実現」を行うこと (世の中のお役に立つことで、自分も生かされる)
- (2) 「生活できるだけの収入」を得ること (1つの世帯の総収入で、家庭の暮らしが成り立つ)
 - i) 「自己実現を行うこと」、「生活できるだけの収入を得ること」が実現できる仕事を、「ディーセント・ワーク(Decent Work, ちゃんとした仕事、適正な仕事)」と言う。
 - ii) 「ディーセント・ワークに就(つ)くこと」を目指していただきたいと、私は皆様に希望する。

4. 「ディーセント・ワーク」に就くには、「一生勉強し続ける」以外にない。

- (1) 世の中は、毎日どんどん変化し続ける。
世の中の変化に応じて、お客様の問題も変化し続ける。
変化し続けるお客様の問題を解決するには、世の中の変化は何か、お客様の問題は何かを勉強し続け、その解決方法を考え続けなければならない。
「問題解決能力」が最も大事。
- (2) 中学校や高校の勉強は、社会に出て役に立つのかー「大いに役立つ」が答え。
 - ①「教科の勉強」はすべて役立つ(相手の言うことがわかる。文字が読める。文字が書ける。自分の考えが発表できる。)

②「健康」で「規則正しい生活習慣」を身に付けていることは、仕事や社会的活動をする上で欠かせない。(職場に元気で時間前に到着できなければ、約束は果たせない。仕事はできない。仕事とは、約束を果たせること。)

③最も役に立つのは、「勉強の方法」を身に付けていること。

(3) (参考までに)「学習には3つの段階」がある(「学習の3段階理論」とは)

①「理解」…「うん、なるほどとよくわかる」「腑(ふ)に落ちる」(学校の先生の授業は、両手を机の上に置き先生の目を見ながら真剣に受けることが大事)

i)「理解を防げるもの」①「欠席」②「遅刻」③「早退」④「おしゃべり」⑤「ケータイ」
⑥「居眠り」⑦「忘れ物」

ii)「仕事」も同様に、①～⑦などがあると「仕事」にならない。約束が果たせない。信頼が築けない。

中学生や高校生の内に、①～⑦などがないように自分自身をコントロールする(律する)こと、「自律」すること。

iii)「授業」を受けるときや「人の話」を聞くときには、「メモ」を取り続けることが大事。

「仕事」には、細かな「教科書」は普通はない。先輩や同僚、お客様からお聞きした内容をメモし続け、その「メモ」を仕事の上での「教科書」代わりにして自分の力で勉強し続けることが、「仕事で成功する」最大の秘訣の1つ。(仕事は自分の力で身に付けるもの。「メモ」で)

②「定着」…一度「うん、なるほど」と「理解」したことを繰り返し復習して、完全に身に付けること。

i)何も見ずにスラスラ正確に言えるようにすること…「音読練習」を何十回、何百回もすること。

ii)何も見ずにスラスラ正確に楷書(かいしょ)で書けるようにすること…「書き取り練習」を何十回、何百回もすること。

iii)問題を見た瞬間に条件反射で正解が出るようにすること…「計算練習」を何十回、何百回もすること。

①「音読練習」「書き取り練習」「計算練習」を徹底的にすること。「練習、練習、また練習」で、一度「理解」した内容の「定着」をはかること。

②「仕事」の上での「メモ」も全く同様。3つの「練習、練習、また練習」で、仕事の上で取った「メモ」の内容をすべて正確に身に付けること。(正確さに欠けると仕事にならない)

③「応用」…①テストで合格点が取れること(「応用問題練習」「過去に出題された問題練習」をし、間違えたところを「理解」→「定着」に遡(さかのぼ)って学習し直すこと【遡及(そきゅう)学習】)

④社会で実際に役立てること(本当の勉強は社会に出てから)

*「理解」し、「定着」したことを、失敗を恐れずにどんどん使ってみる。(「トライ・アンド・エラー」の精神で)毎日、新しいものに挑戦し続けることが求められる。

(4)自分で勉強する能力(「自己学習能力」)を、中学校や高校を出るまでに身に付けておく。

①勉強は一生続けるもの。②学習方法を絶えず工夫すること。③大学や大学院には、何年かに一度は通い続ける。何回も大学や大学院に入り直すこと。

(5)教科以外の学校での活動も社会に出て「大いに役立つ」ので、積極的な取り組み、日本独自の「かくれたカリキュラム」も大切。

①そうじ、特に「トイレそうじ」②学校行事(入学式、卒業式、始業式、終業式、運動会)

③部活動

＊「躰(しつけ)」①美しい立居振舞い ②敬語表現を含む言葉遣い(です・ます調で話せること)が大事。

5. これからの社会で求められる「鍵となるような能力(キー・コンピテンシー)」とは

(1)「話す力」「聴く力」「読む力」「書く力」「数学の力」「コミュニケーションする力」

①英語

②コンピュータ

③自分の専門(得意分野)

} この3つを深める。自分のものにする。

④新聞を1日1時間以上なめるように読み「考える」力

(2)「異質な集団で交流する力」

①他人とよい関係をつくる能力

②協力する、チームで働く(チームプレイとは、誰にも頼らず自分の責任は自分で果たすこと)－「協力する能力」

③争いを処理し、解決する能力

＊「多様性(ダイバーシティ)」を理解できる(相手をそのまま認める)力
「思いやり(相手の立場に立ってものごとが考えられる)」の力

(3)「自律的に活動する能力」

①大きな展望の中で活動する

②人生計画や個人的なプロジェクトを設計し実行する能力
・計画を決め、目標を定める

③自らの権利と義務を知る－権利として法律で認められていることと同時に法律で禁止されていることを知る－(知らないでは済まされない)

6. おわりに－私の好きなことば－好きなことばは大切にしよう(ノートにメモ)

(1)「ブルドック魂」…「一度食いついたら離すな」中学校のクラス担任 岡田忠治先生

(2)「一所懸命」…「一つの所で命を懸けるくらい熱心に」足利高校のマラソン大会の合い言葉

(3)「一生勉強、一生青春」…足利市の書家 相田みつを先生

(4)「教育ある人とは一生勉強し続ける人」ドラッカー先生

(5)「いつまでも若々しく生きる」中村天風先生

(6)「会った人が皆友達」京都一燈園 石川洋先生

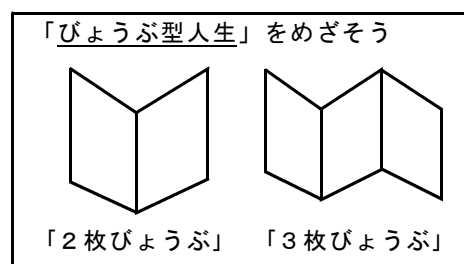
(7)「独立自尊」福沢諭吉先生

(8)「自他共栄」中学校の柔道部の椎名弘先生

＊「書き抜き読書ノート」をつけよう

＊本をたくさん読もう

＊よい先生を見つけよう。(師匠(ししょう)をもとう！)



以上

自分の家族の良さ、自分の友だちの良さ、大宮中学校の良さ、杉並区の良さ、東京の良さ、日本の良さ、ASIAの良さ、地球の良さを見つけよう。

自分の良さも見つけよう。良いところはお互いに認め合い、励まし合い、どんどん伸ばそう。「励まし合う仲間づくり」をしよう。